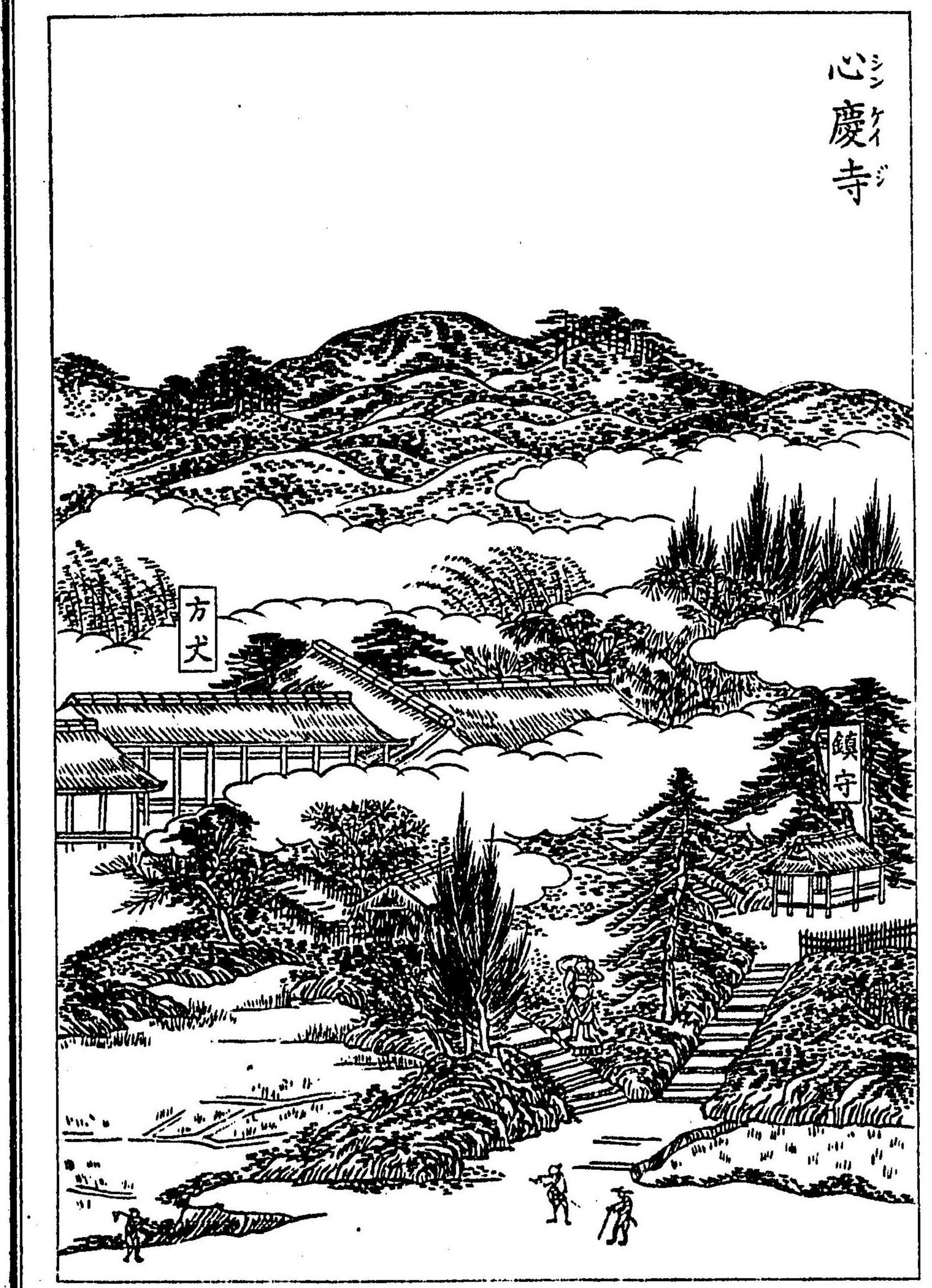


心慶寺



者初城

客殿

秋葉



に居る、其執事野元藤次秀安、帖佐邑萩原城に在りて、首尾相援ふ、畠山進て、齡岳公の執事本田信濃守重親が守れる溝邊城を圍む、公も亦萩原城を圍み玉ふ、二城互に危き事旦夕にあり、國分邑宮内正宮の社人、和を畠山に求む、是に於て公と約して、共に圍を解けり、其後文明十八年、肝付氏支裔、肝付兼固城主たり、

舊蹟合記 高松城 有川村にあり、高松は即ち其地の字名にして、昔し北原氏これに居れりといひ傳ふ、西南北の三方は、穹谷にて、東方一線路を通ず、射場、馬場等の故蹟遺れり、△玉利城 崎森村にありて、東の一面曠野に續き、其他の三面は、峻谷なり、△曾我石 三繩村にあり、我皇國六十六州に所建と云、按に薩州鶴田邑尼寺の跡、及び隅州馬越邑黒坂寺内に、曾我石ありて、大磯虎女が一國一基の塔なりとす、

かく隅州に於ては、既に馬越にあり、然れば此溝邊邑の曾我石も、虎女彼一國一基の外に、建立せるものによ、

物産

- 飲食類 石原饅頭 有川村、石原といふ所の名物なり、
- 藥品類 枳殼 △柴胡 △瓜呂實 △茯苓
- 飛禽類 鶉 △鳧 △雉 △鷓鴣

三國名勝圖會卷之三十九終

